

くまもの
文化財

県指定重要無形民俗文化財

＝峯の宿ばんば踊り＝



阿蘇郡高森町大字中峯の宿

峯の宿は、阿蘇外輪山の東部外側に展開する標高約八七〇メートルの高原畑作地帯にあつて戸数一一戸、人口六〇余人の小さな集落で、はるか東方には、熊本・大分・宮崎の三県にまたがつてそびえる祖母山（一七五七メートル）を仰ぎ、付近を流れる吉尾野川は、宮崎県五箇瀬川に合流する。このばんば踊りは、寛政時代（一七八九～一八〇〇）に宮崎県の日向、椎葉、高千穂方面から伝えられたといわれている盆踊りで、毎年八月一日・二日の夜、初盆を迎える家の庭で、初盆がないときは村の広場で行なわれる。ばんばとは、この盆の場、晩の広場のことといわれている。

踊りは、盆提灯を掲げた竿を中心に、男女一八人、二四人がゆかたを着て、男は鉢巻、女は姉さんかぶりの姿で輪をつくり、笛、太鼓、小太鼓の拍子と「太夫どき」という唄い手の歌に合わせて踊るもので、素朴な芸態を豊かに確かに伝承し、現在八番を伝えている。

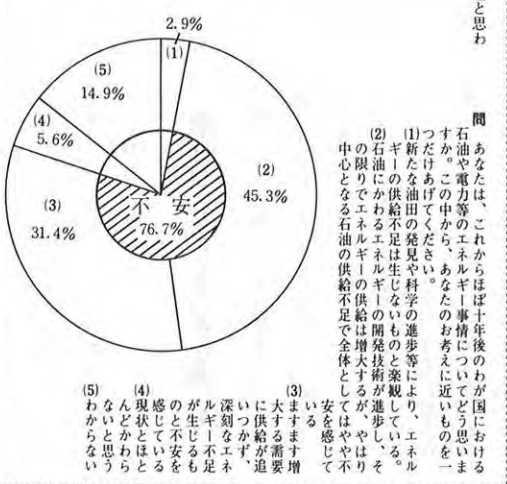
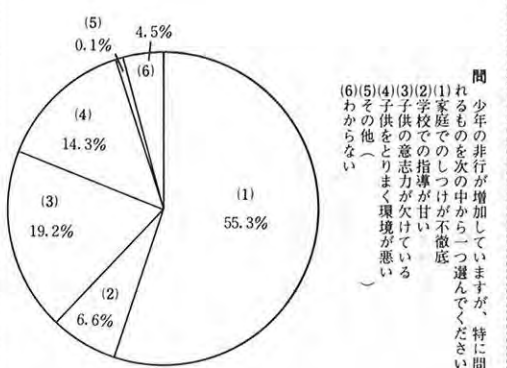
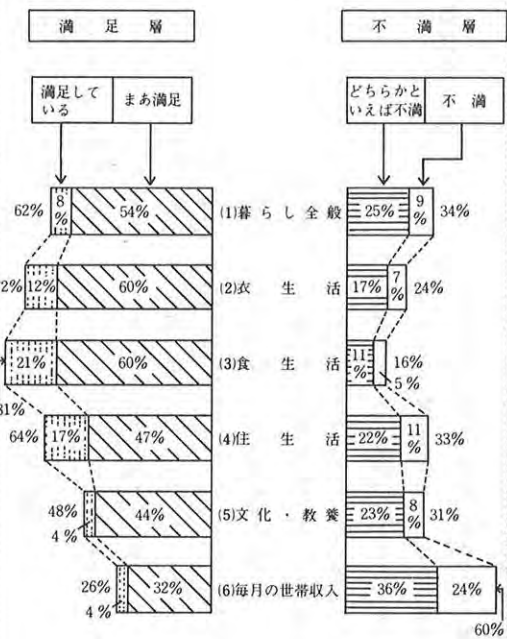
次は、踊り手一同が初盆の家の庭に入りながら二拍子で踊る「二ツ拍子」の歌詞である。

御免下さいこの家の亭主
護法じゃなけれど暫く御免
聞けばこなたの御主人様の
おはてなされし其の初盆で
死んでなるかな二十二や三で
墓にそとばが立てらりよか
死んで野辺まで共ひきつれて
野辺で別れりやそりや先きや一人
様と別れて松原行けば
松の露やら涙やら

（昭和五十六年三月二十六日指定）

公聴のページ

問 あなたは、現在ここにあげた6つの生活内容にどの程度満足しておられますか。



昭和三十五年県民意識調査結果報告

暮らし全般に高い満足度
ただし毎月の収入には不満も

県政の各分野において、県民の関心、要望、意向をとらえ県政推進上の資料にすることを目的とする、昭和三十五年県民意識調査の集計結果が、昭和三十六年から始められたこの調査は、今回で第六回目を迎える。

この調査は県下を六つの地域に分け、無作為に抽出した満二十歳以上の男女千人を対象に留置記入法により調査したもので、回収率は八十六・一パーセントで

調査項目には暮らしむき、生活意識、社会意識、福祉、健康づくり等二十項目を設け、合計七十の設問について調査した。この中で、今回は新たに石油消費節減対策や、十年後のわが国のエネルギー事情について尋ねたエネルギー問題や、地方レベルでの国際交流についての設問等を設定し、多様化する県民意識の収集を図っている。

暮らしの充足度についてはグラフにあるように、「暮らし全般」「衣・食・住生活」においては満足であると答えた人が六十パーセントを超えている。特に食生活においては満足していると答えた人が八十パーセントを超えたのが目立っている。それとは逆に、毎月の世帯収入については六十パーセントの人が不満であると答えており、中でも全く不満であると答えた人が二十四パーセントと、全体の約四分の一に達し、収入の面ではまだ不満が多いようである。

前回の調査結果（第五回昭和三十二年十月調査）と比べると、全体的に「満足層」が若干減り、逆に「不満層」が増える傾向にある。

今後の暮らし向きについても良くなる

と答えた人が前回の調査より十二パーセント減って十パーセントにとどまり、悪くなるも答えた人が十パーセント増え九パーセントという結果になった。

また、十年後のエネルギー事情については七十六パーセントの人が不安を感じており、その節減を意欲して実行しているのが四十五パーセント、特に意識しないで従来のやり方で節約していると答えた人が四十九パーセントであった。

少年の非行増加の原因としては、「家庭でのしつけが不徹底」と答えている人が五十五パーセントと半数を占め、これに対して「学校での指導が甘い」と答えた人が七パーセントとかなり低くなっている。